

機関番号：32649

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20730365

研究課題名（和文）東アジアの「遅れてきた福祉国家」に関する国際比較研究

研究課題名（英文）A Comparative Study on ``Late-coming Welfare States`` in East Asia

研究代表者

金 成垣（KIM Sung-won）

東京経済大学・経済学部・専任講師

研究者番号：20451875

研究成果の概要（和文）：近年、比較福祉国家研究の分野においては、東アジア諸国・地域への関心が高まり、多様な議論が活発に行われてきている。しかしながら、それらの議論は、「後発福祉国家」としての東アジア諸国の歴史的な脈を軽視しており、そのため、理論研究においても現状・歴史分析においても多くの限界を露呈している。本研究においては、「後発」という時間軸の視点を用いて、東アジアにおける福祉国家の歴史と現状を分析することによって、既存研究にみられる限界を乗り越える新しい視座を確保することができた。

研究成果の概要（英文）：In recent days, comparative research on welfare states has seen a growing interest in the East Asian countries. It has been actively carried out various discussions. However, those discussions have revealed a number of limitations, because they neglect the historical context of East Asian countries as ``a late-coming welfare state``. In this study, by using a perspective of ``late-coming`` and analyzing the history and present of East Asian welfare states, we can arrive at a new viewpoint that overcomes limitations observed in today's discussions on East-Asia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：東アジア、遅れてきた福祉国家、後発性

1. 研究開始当初の背景

1990 年代後半以降、比較福祉国家研究の分野においては、「生産主義レジーム論」や「開発主義国家論」、「混合型福祉レジーム論」、「韓国福祉国家性格論争」等々、東アジア諸国・地域に関する研究が盛んになっている。これら東アジア研究が、これまで主に西欧諸国を中心として展開されてきた比較福祉国家研究の射程を広げる上で大きく貢献していることは確かである。しかしながらその一

方で、それらの研究が東アジアの国・地域の特徴を比較分析のなかに位置づけることに成功しているかについては定かではない。なぜならば、東アジア福祉論の展開において、それらの国・地域が置かれている福祉国家化の後発国としての歴史的な問題が軽視されているからである。

実際、これまで日本のみならず韓国や台湾、中国などを対象とした比較福祉国家研究では、福祉国家化の後発国の歴史的な問題を積極

的に取り上げることがほとんどなかった。西欧の「福祉国家」に対して「後発福祉国家」という用語が頻繁に使われてきたが、そこには「先進」と「後進」あるいは「成熟」と「未成熟」などといった一定の価値判断が働き、さらに「東アジア」という地域的特殊性が強調されることもしばしば見られる。そのため、それらの国・地域に対しては、比較分析の対象から除外するか、例外論または従来の議論とは整合性のない別の枠組みから説明することが多かった。上記の生産主義レジーム論や開発主義国家論はまさにそうした現れである。他方で、混合型福祉レジーム論や韓国福祉国家性格論争に典型的に現れているように、歴史的問題を排除して、現存する制度や政策の表面的特徴にのみ着目し西欧発の福祉国家論を機械的に適用しても、結局、東アジア諸国の「座りの悪さ」が指摘されるだけである。いずれも西欧モデルに引っ張られ、そのなかで福祉国家化の後発国が置かれている歴史的文脈については十分に論じきれない。

2. 研究の目的

以上の背景をふまえて、本研究では、東アジア諸国・地域（主に日本、韓国、中国、台湾）における福祉諸制度・政策を、「遅れてきた福祉国家」という視点から比較分析することによって、(1) それらの国・地域のもつ後発性を明らかにし、(2) それれにもとづいて、比較福祉国家研究のための新しい理論を構築することを目的とした。具体的に述べると以下ようになる。

「遅れてきた福祉国家」という視点の焦点は、遅れて福祉国家に乗り出した国が選択した、あるいは選択せざるを得なかった福祉国家化のパターンを明らかにすることにある。ここでいう「遅れてきた」とは、あくまで福祉国家化を開始したタイミングを問題とするターニングであり、「後進国」や「周辺国」といった価値判断を前提とはしていない。歴史的事実として、1980年代の「日本型福祉社会」とその後の日本の福祉国家の展開、1990年代末の「生産的福祉」から2000年代初頭の「社会的投資戦略」へとつながる韓国の福祉国家の形成過程、そして中国（「福祉の社会化」や「社区福祉」）や台湾（「新中道路線」）の福祉国家化の戦略をみてみると、それは、先進と後進といった価値判断的状况、あるいは東アジアという地域的特殊性には還元されず、また西欧発の類型論に拠るかぎり「座りの悪さ」としてしか位置づけられない、いわば「遅れてきた」がゆえに現れる後発国独自の特徴を発見することができる。本研究では、後発国が福祉国家化を主な課題としたときに、どのような戦略をとるのか、福祉国家化パターンの特徴はどこにあるのかといっ

た、これまで殆ど注目されてこなかった新しい問いに着目しそれを整理・検討することによって、比較福祉国家研究における後発国の歴史的問題を明らかにする。

その際、狭義の福祉国家だけでなく、それ以外の制度領域、特に民間営利・非営利団体の福祉的機能にも着目する。今日のグローバル化のなかで、東アジアの国々では福祉国家の萌芽的發展が見られている。1990年代後半以降の韓国がその典型であるが、中国や台湾においても政府の福祉分野への積極的な介入が見られている。その中身を見ると、狭義の福祉国家が成長する一方で、福祉供給・福祉政治をめぐる、先発国の経験には斉一的には還元されない新しい社会関係や制度が生まれている。日本の福祉国家化の経験がそうであったように、こういった社会変動の状況は、西欧諸国の経験の一般化から得られた福祉国家に関する既存理論では適切に捕捉できず、例外的ケースとしてみられるか、比較分析の対象から除外しがちである。本研究では、後発であるがゆえに現れる新しい社会関係や制度を、「遅れてきた福祉国家」の重要な担い手として着目しその形成メカニズムを西欧の経験と比較可能な形で説明する。

この目的を達成することによって、本研究課題では、従来の比較福祉国家研究の偏狭性を是正するとともに、西欧と東アジアの経験を同時に捕捉しうる新しいアプローチを開発するための理論的課題を提示することをめざす。

3. 研究の方法

(1) 歴史・現状分析：日本・韓国・中国・台湾の福祉諸制度・政策の歴史・現状に関する資料を収集し多国間比較分析を行う。

(2) 理論研究：歴史・現状分析にもとづきながら、従来の比較福祉国家論と東アジア研究を批判的に検討することによって、新しい理論構築を試みる。

特に近年、福祉国家の萌芽的發展が見られている韓国や台湾、中国の経験を「遅れてきた福祉国家」という視点から分析するためには、先発福祉国家の今日の「再編」課程に関する研究だけでなく、それ以前の「形成」・「拡大」過程に関する歴史研究が求められる。つまり、発展段階を統制した比較歴史的な視点が必要である。ところが、近年の東アジア福祉国家研究の多くにおいては、そういった歴史認識が欠けている。このため本研究においては、主に歴史的視点に焦点を置いて、各国の歴史と現状を比較分析し、それれにもとづいて既存研究の限界を乗り越える新しい視座を確保していく。

4. 研究成果

(1) 歴史・現状分析を通じて明らかになっ

た東アジア諸国の後発性の特徴

①環境的諸要因：西欧諸国が経験した「福祉国家の黄金時代」をスキップして、「脱工業化」「(労働勢力の)脱組織化」「脱家族化」のなかの福祉国家化

②問題の諸相：失業・貧困問題と少子高齢化問題の同時出現によって生産年齢人口問題と従属人口問題へ同時対応するかたちでの福祉国家化

③制度の発展経路：制度導入と制度抑制の同時進行による「圧縮された」福祉国家化

④制度の類型的特点：所得保障制度においては、国庫負担の大きい社会保険が中心になっており、失業扶助や社会手当などの扶助制度が極端に少なく、その代わり公的扶助のウェイトの大きい制度体系。そして医療や介護などの社会サービスにおいては準市場を含む民間の役割が強く、国家役割が弱い制度体系

(2) 東アジア諸国・地域を西欧と比較するための新しい理論構築の論点

①福祉国家を「所与の存在」ではなく「歴史的な存在」として捉えること

②従来の類型論的アプローチが見逃している時間軸の視点をすくい上げ、今日の意味における新しい段階論的アプローチを構想すること

③段階論的アプローチから従来の類型論の限界を補完しつつ両者を統合しうる方法論を構築すること

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

①김성원 (金成垣), 「일본의 정권교체와 복지개혁: 실업·빈곤대책을 중심으로」(日本における政権交代と福祉改革——失業・貧困対策を中心に), 『아세아연구』(亜細亜研究) No.14 3, 査読無, 22~49, 2011 年。

②金成垣, 「日本と韓国における失業・貧困対策——二層体制の歴史的・構造的特徴」, 『週刊社会保障』No.2611, 査読無, 58-63, 2011 年。

③金成垣, 「韓国における若者の生活困難と社会保障①」, 『月刊福祉』2011 年 4 月号, 査読無, 88-91, 2011 年。

④金成垣, 「韓国における若者の生活困難と社会保障②」, 『月刊福祉』2011 年 4 月号, 査読無, 88-91, 2011 年。

⑤金成垣, 「韓国における若者の生活困難と社会保障③」, 『月刊福祉』2011 年 4 月号, 査読無, 88-91, 2011 年。

⑥金成垣, 「社会保障からみるディーセント・ワークの課題——日韓の現状と今後」,

『連合総研レポート DIO』No.256, 査読無, 10-12, 2011 年。

⑦김성원 (金成垣), 「일본 복지국가연구의 개요와 `다케가와-타다논쟁': 동아시아 비교연구의 과제」(日本における福祉国家研究の系譜と「武川-田多論争」——東アジア比較研究の課題), 『한국사회정책』(韓国社会政策) No.16(1), 査読無, 235-270, 2009 年。

⑧KIM, Sung-won (金成垣), ``Socioeconomic Changes and Welfare Reform in Korea: in the Context of Late-coming Welfare State'', International Journal of Japanese Sociology, No.18, 査読無, 2009.

⑨金成垣・山本克也, 「日本と韓国の社会と社会保障」, 『海外社会保障研究』第 167 号, 査読無, 4~17, 2009 年。

⑩金成垣, 「李明博政権の福祉政策——方向転換か変わらぬ道か」, 『Int' lecowk : 国際経済労働研究』11・12 月号, 査読無, 13~18, 2008 年。

[学会発表] (計 4 件)

①金成垣, 「比較福祉国家研究における類型論と段階論——新しい分析枠組みの模索」, 社会政策学会第 120 回大会, 2010 年 6 月 20 日, 早稲田大学。

②金成垣, 「若者の貧困問題と社会保障制度——福祉国家体制への示唆」, 社会政策学会第 119 回大会, 2009 年 11 月 1 日, 金城学院大学。

③金成垣, 「韓国の『美しい隣人』と『ソウル・チャレンジ』事業」, 福祉社会学会第 7 回大会, 2009 年 6 月 5 日, 日本福祉大学。

④金成垣, 「東アジア福祉国家研究と日本の役割——『先発国のなかの後発国』・『後発国のなかの先発国』」, 社会政策学会第 116 回大会, 2008 年 5 月 25 日, 國學院大學。

[図書] (計 5 件)

①金成垣編, 『現代の比較福祉国家論——東アジア発の新しい理論構築に向けて』(編著) ミネルヴァ書房, 査読無, 1~544, 2010 年。

②김교성·김연명·최영·김성원 (金成垣)·김병철, 『동아시아 사회복지와 사회투자전략: 사회투자전략의 비전과 가능성에 대한 모색』(東アジアの社会福祉と社会投資戦略——社会投資戦略のビジョンと可能性の模索) 나눔의집 (ナムムの家), 査読無, 1-270, 2010 年。

③金成垣, 「若者の貧困と社会保障——日本・韓国・台湾の福祉国家体制への示唆」, 樋口明彦『若者問題と教育・雇用・社会保障』法政大学出版局, 査読無, 91~115, 2010 年。

④金成垣, 「遅れてきた福祉国家——韓国からの新しい視座」埋橋孝文・木村清美・戸谷

裕之編『東アジアの社会保障——日本・韓国・台湾の現状と課題』ナカニシヤ出版，査読無，29～58，2009年。

⑤金成垣，『後発福祉国家論——比較のなかの韓国と東アジア』東京大学出版会，査読無，1～264，2008年。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金 成垣 (KIM, Sung-won)

東京経済大学・経済学部

研究者番号：20451875

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし